

厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）

「障害者の防災対策とまちづくりに関する研究」

分担研究報告書

障害(児)者を対象とした災害時前訓練教材の開発

研究代表者 北村 弥 生 国立障害者リハビリテーションセンター

研究分担者 前川あさ美 東京女子大学

研究要旨

障害（児）者が、「助けられる者」としてではなく、主体的に避難訓練・避難行動に取り組むための確信と決意を持つための教材および訓練を開発する。

発達障害を抱える子ども本人が、あるいは家族とともに主体的に取り組める防災ツールとしての「守るカード」のiPad用のアプリケーションソフトの開発を開始した。これは、自己理解や他者とのコミュニケーションにも有効なツールとなると考えられた。

また、経験を語り継ぎ、蓄積することを実行するために、被災地の保護者及び支援者と協力して「発達障害と災害」（16ページ）を作成した。

日本自閉症協会に研究代表者が協力して作成した「自閉症のひとのための防災ハンドブック」を素材にしたマルチメディアデジ版(日英)は公開の準備中である。

さらに、発達障害の大学生を対象に想定した「発達障害のある人の防災実践BOOK」（36ページ）、地域住民のためのリーフレット3種類（A4サイズ1枚、両面3つ折り）を作成した。

作成した教材は、個々の対象者の生活圏内での実践と連携させた教育プログラムを実施し効果を検証する他、インターネットを介して公開し、活用を促す計画である。

(資料1) 「まもるカード」アプリケーションソフト iPad 用

(資料2) リーフレット「災害と発達しょうがい」(pp. 16、印刷はA5版)

(資料5) 当事者と地域住民のための災害時要援護者支援リーフレット (A4用紙1枚、三つ折り)

- ・障害のある人と周囲の人の災害時の備え
- ・～災害など緊急時の避難所における～ 障害のある人の支援
- ・障害のある人の支援 ～在宅の場合～

(資料6) Disaster Prevention and Support Handbook for People with Autism(pp. 46、印刷はA5版)

(資料7)発達障害のある人の防災実践BOOK(pp. 32、印刷はA4版)